

2023 年度 運営総括

北星学園女子中学高等学校



Shine Like Stars
Hokusei Gakuen
Girls' Junior & Senior High School

I. はじめに

2023 年度年間聖句

「本兄弟たち、わたし自身は既に捕らわれたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がイエス・キリストによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標をもってひたすら走ることです。」～フィリピの信徒への手紙3章13・14節～

今年度はこれまでにない動きのあった1年でした。そのひとつは、例年以上に転出生徒数が増加したことでした。転出理由は多々ありましたが、コロナ禍を境に、これまでであった学校生活・学習に対する考えとは異なる傾向に拍車がかかった印象を持ちます。転出希望生徒保護者の教員・学校に対する要望も、これまでとは異なるものが多く、その対応に追われました。これらの傾向は、今後も続くことが予想されます。その一方、今年度学校医が着任し、今後は女性医師の検診が基本となり、生徒が安心して受診できる環境が整いました。また、ウェスレー財団(キリスト教ミッション財団)との協力関係がつくられ、今後の学園規模での関係の発展が望まれるなど新しい動きも始まりました。さらに、改革推進委員会による充実した内容の夏期研修の実施、いじめ対策委員会のよりスピード感のある働きが意識された年となりました。

なかでも今年度の最も大きな出来事は、後期から次期校長が英語科嘱託教員として赴任されたこと、そして今後に向け本校が進むべき方向性を校内外に示す「教育フォーラムⅠ・Ⅱ」を開催することができたことです。また、改革推進委員会に次期校長が加わり2025年度以降に実施する教育ビジョンの企画立案にもあたりました。これらの教育ビジョンに基づき実施される企画を、新校長就任と女子中高が考える新しい教育に期待する流れに応える形で次年度に繋げていくことが大切です。校外との関わりでは、インターハイ北海道大会、全国中高連北海道大会等の全国大会が行われ、北海道代表として参加した部活動生徒、並びに競技専門部担当として運営に関わりました。

本校は創立以来137年、キリスト教の教えを土台とする女子教育を行う学校として歩んできました。社会が変化し、将来の予測が困難となった時代においても、私たちはその変化に対応し、創立者がこの地に学校を創った目的とその使命を継承しながら、次年度以降も歩み続けていくことが大切です。

事業分野	◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策	4	7	7	0	18
21世紀教育への取り組み	1	3	5	0	9
言語教育(キリスト教学校として)	0	0	6	0	6
大学との共同研究(英語・国語・他)	0	0	3	0	3
部活動	0	1	2	0	3
生徒募集	4	6	5	0	15
マネジメント改革	1	3	0	0	4
北星ブランドの構築と運用	0	3	2	0	5
校地資産活用	0	0	2	0	2
財務運営方針	0	0	4	0	4
合計	10	23	36	0	69

※達成度：◎達成、○達成への進行度(高)、△達成への進行度(低)、×中止

Ⅱ. 重点施策

1. 21 世紀教育への取組み

(1)	新しい時代に求められる知識の習得、学力の向上を目指します。	達成度	△
-----	-------------------------------	-----	---

新しい時代に必要な安心して学べる教育環境の検討を行いました。知識の習得、学力向上のための具体的検討は次年度に継続して行います。

(2)	「PBL型学習、SDGs教育、商品開発、GS lab」について継続して取組みます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

昨年度に続き教科・各教員の実践による中学商品開発・高校GS lab等の取組みを行いました。継続する取組みであることから、今後も主体的な学習を通して生徒の成長につながる効果的な学習内容・方法や教員の関わり方等についての課題への対応を教育研究部と連携して取り組んでいくことが大切です。

(3)	「リベラルアーツ教育、探究型教育」導入の研究について継続して取組みます。	達成度	△
-----	--------------------------------------	-----	---

昨年度に続き探究型教育のための研修の機会を持ち、各教科で工夫検討がされましたが、リベラルアーツ教育自体の研究と探究型教育との関連は十分に行えませんでした。

2. 言語教育

(4)	新しい時代の本校の教育における重要事項の検討について取組みます。	達成度	○
-----	----------------------------------	-----	---

新しい時代に必要な探究型教育やコロナ禍を経験した後の学校行事での体験、全校礼拝での聖書からの学びを通して、学校生活で意識される「言語教育」の浸透を図りました。今後も具体的な実践を含め、取組みを推進していくことが大切です。

(5)	21 世紀教育への取組みによる実践を目指します。	達成度	△
-----	--------------------------	-----	---

PBL型学習、商品開発、探究型授業の研究、スタディツアー等を担当・科コース・学年が担当して研究実践を行いました。今後は女子中高が目指すリベラルアーツ教育を念頭にいた各担当間の連携によって 21 世紀に必要とされる教育展開をグランドデザイン 2030 で実践していく必要があります。

(6)	全ての教育で教科を超えた言語教育の実践を目指します。	達成度	○
-----	----------------------------	-----	---

これまでの経験を活かし、工夫された内容の授業が個々の先生の努力で増加しました。工夫された授業展開が更に活かされるために、学習習慣を身につけ基礎学力の向上に必要な方策の導入を考えていく必要があります。

(7)	言語教育は本校の在り方そのもの…源を聖書に置くことに継続して取組みます。	達成度	◎
-----	--------------------------------------	-----	---

言葉と教育の関わりは学校教育には不可欠なものです。特にキリスト教学校において聖書に示されたその意味することについて、毎日の礼拝等を通して教員が生徒と共に受取り、毎日の生活で活かしていくことの大切さを感じた 1 年でした。個々の学校生活に活かすためには時間を要することですが、継続していく必要があります。

3. キリスト教教育

(8)	福音的聖書信仰に基づく教育の堅持継承について継続して取り組みます。	達成度	◎
-----	-----------------------------------	-----	---

年間学校聖句を17年前から掲げています。各学年目標聖句を意識した学校行事の実践を行った学年がありました。また、キリスト教教育部が中心となり毎月の礼拝カレンダー、礼拝お話しノートの配布を通して聖書の教えを身近に置く学校生活を実施しました。

(9)	若い世代と共に生きるキリスト教学校づくりに取り組みます。	達成度	○
-----	------------------------------	-----	---

新しい世代が集まる福音的教会で活躍する賛美リーダー(ワーシップリーダー)を招き、講堂礼拝でメッセージを担当して頂きました。伝統的礼拝を守る教会だけでなく、若い世代が多く集まる教会の紹介、世界で活動するクリスチャンの働きを今後も紹介していきます。

(10)	新時代における教会との関係づくりに取り組みます。	達成度	△
------	--------------------------	-----	---

教会外で活動する牧師やクリスチャン奉仕者を招いての講演、講堂礼拝での報告等を行いました。教会との関係づくりを具体的に取るまでには至りませんでした。

4. 女子教育

(11)	新しい時代における女子教育の在り方の研究について取り組みます。	達成度	◎
------	---------------------------------	-----	---

昨年度末の冬期教員研修会の講演(女子教育・STEAM教育・他)で、講師を招き、教育フォーラムⅠ(対象:在校生保護者)・教育フォーラムⅡ(対象:塾・一般市民)として実施しました。同時に新校長を迎えるにあたって、これからの女子教育について研究を深めることができました。

(12)	21世紀社会のイノベーションを担う女性の育成について継続して取り組みます。	達成度	○
------	---------------------------------------	-----	---

ウェスレー財団主催によるキリスト教学校教育同盟校、他の女子校との交流、Zontaクラブの活動等、年間を通して行うことができました。開かれた環境で新しい時代の女性の生き方について体験的な学びを加えました。

(13)	新しい時代のリーダーの養成に継続して取り組みます。	達成度	○
------	---------------------------	-----	---

キリスト教学校教育同盟校生徒交流での生徒による学校生活・行事の取り組み内容の発表や他の女子校との交流を通して、本校が願う新しい時代に求められるリーダーに必要な力を身につけている生徒が見受けられ、成長を感じられました。引続き本校のリーダー養成の取り組みを継続していきます。

5. 学力の向上

(14)	学ぶことの楽しさを体験する授業づくりを研究実践します。	達成度	○
------	-----------------------------	-----	---

今年も教育研究部が中心となり、教科を超えた授業見学を実施しました。今後は教員相互の授業見学で得た経験を授業に活かせるよう努めます。

(15)	探究型授業に必要な学力が身につく授業の実施に取り組みます。	達成度	○
------	-------------------------------	-----	---

昨年度に続き教育研究部からの探求授業に係る企画提案を教員研修会で取上げ、より良い授業づくりのための対面・オンラインによる講演、ワークショップを実施しました。

6. 財政健全化

(16)	教育活動に萎縮を招かない財政健全化の追求を目指します。	達成度	△
------	-----------------------------	-----	---

教職員会議で財政健全化が本校にとって最重要課題であることを確認し、奨学金総額の削減、出張研修費等の削減に務めました。

(17)	入学生徒数増に繋がる教育改革と 2030 年度経常収支差額均衡を目指します。	達成度	△
------	--	-----	---

今年度の生徒募集結果は予想を下回る厳しい結果になりました。募集結果内容を分析し次年度生徒募集の対応策を検討します。また、今年度後期からは 2022 年度から検討が始まった教育改革案(2025 年度開始)の最終調整段階に入り、2030 年度経常収支差額均衡を目指す教育改革の具体案策定を進めることができました。

(18)	奨学金制度の有効活用の検討と実施に継続して取り組みます。	達成度	△
------	------------------------------	-----	---

奨学金総額の削減に取り組みましたが、同時に奨学金を有効に用いた本校教育の特徴を活かした生徒募集(成績・部活動)に継続して取り組みます。

Ⅲ. 21 世紀教育への取り組み

1. グローバル教育 (Cambridge English・国際基準教育)

(1)	ケンブリッジ英検認定校の継続と課題整理について取り組みます。	達成度	△
-----	--------------------------------	-----	---

ケンブリッジ英検認定校の継続について担当教科での検討を行いました。今後、学校全体としての方向性を決定します。

(2)	国際基準教育の研究に取り組みます。	達成度	△
-----	-------------------	-----	---

後期から中学課程での S T E A M 教育を先行して実施しました。同時にマイクロソフト主催セミナー「業務改善を支援する Microsoft Power Platform」等への参加を教員に案内等行いましたが、学校全体での十分な取り組みは行えませんでした。

(3)	主体的な学習ができる生徒育成の研究に継続して取り組みます。	達成度	△
-----	-------------------------------	-----	---

昨年度から継続して教育研究部の企画提案(研修等)に、教員が参加しました。今後は個々の教員が担当する授業で主体的な学習の実践が求められます。

2. リベラルアーツ教育の研究と実践

(4)	リベラルアーツ教育の研究に継続して取り組み、実践を目指します。	達成度	△
-----	---------------------------------	-----	---

リベラルアーツ教育にフォーカスした研究はできませんでした。

3. 探究型教育の推進と研究 (本校に相応しい形の追求・PBL 学習)

(5)	探究型教育の推進と研究に継続して取り組みます。	達成度	○
-----	-------------------------	-----	---

校内研修、オンラインを利用した研修参加に継続して取り組みました。

(6)	本校に相応しい教育の形の追求とPBL型学習に継続して取り組みます。	達成度	△
-----	-----------------------------------	-----	---

PBL型学習に関しての教員への情報提供、研修会への参加を促しましたが、本校に相応しい形を意識した十分な取り組みはできませんでした。

4. インターナショナルスクールとの関係構築

(7)	中学入学生の確保に向けてインターナショナルスクールとの関係構築に取り組みます。	達成度	○
-----	---	-----	---

後期から次期校長を中心に北海道インターナショナルスクールと本校の中学生との間でSTEAMプログラムを用いた交流が始まりました。次年度以降も継続し、関係を深めていきます。

5. 将来の学校形態と役割（中高大学校の枠組）、学び方、学校の在り方

(8)	学园内教育のスケールメリットを用いた教育制度や学校形態の研究に継続して取り組みます。	達成度	○
-----	--	-----	---

コロナ禍を一つの契機として、学校での学習形態が変化しています。今年度は本校始まって以来の中学高校併せて途中転出生徒数が増加しました。年度後半に大学との協力で学園全体での取り組みとしてスクールソーシャルワーカー、放課後学習の導入等の検討を行い新年度導入の準備を行いました。

6. キリスト教に基づいた教育の堅持

(9)	キリスト教に基づいた教育の堅持について継続して取り組みます。	達成度	◎
-----	--------------------------------	-----	---

礼拝(学級・講堂)のための礼拝カレンダーの発行、礼拝で使用するお話ノートの作成、学園聖句を意識した学年活動を実施しました。

IV. 言語教育（キリスト教学校として）

1. 母国語としての日本語教育（ランゲージアーツ等）の研究と実践

(1)	学校生活を通して母国語としての日本語教育の研究と実践に取り組みます。	達成度	△
-----	------------------------------------	-----	---

講堂礼拝の中で言葉の大切さを伝えることができました。教職員に対しては授業以外の学校行事・放課後活動を含む学校生活全般での生徒対応時の言葉について注意を伝える機会を持ちましたが、研究と実践としては十分に行えませんでした。

2. 第二外国語（例：中国語・韓国語）の導入検討

(2)	英語圏以外のアジア圏等への留学及び進学を考え第二外国語の導入の検討に取り組みます。	達成度	△
-----	---	-----	---

2025年度導入に向けて学校運営会議で検討しましたが、学校全体での取り組みには至りませんでした。次年度は、導入に向けて検討を継続します。

(3)	イマージョン教育の研究に継続して取り組みます。	達成度	△
-----	-------------------------	-----	---

これまで実施できなかった北海道インターナショナルスクールとの交流、今後の英語教育に関しての意見交換等のイマージョン教育に繋がる活動はありましたが、イマージョン教育に直接つながる取り組みには至りませんでした。

3. 言語教育を土台とした人間教育、語学教育、理系教育

(4)	言語教育を土台とした人間教育、語学教育、理系教育を目指します。	達成度	△
-----	---------------------------------	-----	---

聖書の教えを通しての言葉の大切さを学校生活で活かす働き(礼拝・年間聖句・学年聖句・他)を継続して行いました。今後は語学教育や理系教育に係る取組みを行います。

4. 英語を含む多言語の習得を通しての異文化理解

(5)	英語を含む多言語の習得を通しての異文化理解の推進に取組みます。	達成度	△
-----	---------------------------------	-----	---

多言語の学習に関し具体的な取組みはできませんでしたが、スタディツアー等の体験型学習を通して異文化理解への取組みを行いました。

5. 海外学校との提携検討

(6)	留学を含む交流を目指し海外学校との連携の検討に取組みます。	達成度	△
-----	-------------------------------	-----	---

取組みは海外学校との連携に関しての意見交換レベルに留まりましたが、検討を継続します。

V. 大学との共同研究(英語・国語・他)

1. リベラルアーツ教育

(1)	高等教育(大学等)への学びのつながりを意識した中等教育の探究型授業、PBL学習、SDGs教育の研究に継続して取組みます。	達成度	△
-----	--	-----	---

本校での探究型授業、PBL学習、SDGs教育の取組みは、教員研修、外部研修への参加を通して行われましたが、大学との結びつきを意識した学園的な取組みには至りませんでした。しかし、リベラルアーツ教育は北星学園にとり、建学の精神を活かすものと考えますので、継続した取組みが必要です。

2. 商品開発

(2)	総合学園としてのメリットを活かしたプログラム研究に継続して取組みます。	達成度	△
-----	-------------------------------------	-----	---

8年目を迎えた本校中学の商品開発は一定の評価を受ける教育活動となっていますが、総合学園としての取組みは行えませんでした。総合学園として魅力あるプログラムとなるように検討します。

3. 第二外国語の学習

(3)	総合学園としてのメリットを活かしたプログラム研究に継続して取組みます。	達成度	△
-----	-------------------------------------	-----	---

第二外国語導入の意見交換等検討を行いましたが、大学との連携や学園的視野での検討はできませんでした。

VI. 部活動

1. 新しい教育と部活動・生徒募集活動と部活動の関わり(大学との部活動連携)

(1)	本校での部活動希望生徒への対応と働きかけ(部活動と学習の両立実現)を継続して行います。	達成度	○
-----	---	-----	---

毎年一定程度本校での部活動を希望して入学する生徒への受験に結び付く働きかけを、今年度も継続して行いました。同時に、入学した部活動を希望する生徒たちに、学力向上につながる学習習慣を確立するための指導を行いました。部活動と学習の両立実現に向けて今後も継続します。

(2)	総合学園として部活動連携にかかる可能性の研究に継続して取り組みます。	達成度	△
-----	------------------------------------	-----	---

これまでの経験だけでは対応しきれない部活動に係る課題は増加していますが、部活動の分野においても学園相互の繋がりを意識し、連携する可能性を検討する必要を感じたため、次年度以降の課題とします。

2. 学校規模に見合う部活動の整備

(3)	外部コーチ（校外実技指導者）の導入の検討について継続して取り組みます。	達成度	△
-----	-------------------------------------	-----	---

具体的検討はできませんでしたが、働き方改革を意識した部活道の在り方を教職員で検討していく必要があります。

VII. 生徒募集

1. 新しい入試制度の研究と導入

(1)	入試全般について検討します。	達成度	○
-----	----------------	-----	---

一貫課程及び高校課程の入試内容と形態について改革推進委員会において検討が進みました。

(2)	2024 年度入試からWEB出願を実施します。	達成度	◎
-----	-------------------------	-----	---

今年度から実施したWEB出願について、大きな混乱なく実施することができました。

2. 留学生の積極的な誘致

(3)	国内以外からの受験生と生徒募集の研究に取り組みます。	達成度	○
-----	----------------------------	-----	---

国外姉妹校関係の意見交換や研究を行いました。また、寮を活用する留学生の受け入れの可能性に関しての研究を行いました。今後も、継続して取り組みます。

3. 教員の面談スキルアップ講習

(4)	生徒指導、保護者対応研修の実施に取り組みます。	達成度	△
-----	-------------------------	-----	---

生徒指導、保護者対応研修に関しての研修会を含む情報共有を行いました。

4. 合否判定基準の丁寧な説明

(5)	合否判定基準の丁寧で分かりやすい説明の実施に取り組みます。	達成度	○
-----	-------------------------------	-----	---

入試委員会での検討・確認を行い、学校説明会で丁寧な説明に務めました。

5. 高校入試問題解説会の開催

(6)	高校入試問題解説会の開催の実施を目指します。	達成度	△
-----	------------------------	-----	---

中学入試問題解説会は実施しましたが、高校入試問題解説会は実施できませんでした。今後も開催に関して検討を続けます。

6. 部活動発表会の開催

(7)	部活動発表会の開催の実施を目指します。	達成度	△
-----	---------------------	-----	---

それぞれの部活動においてクリスマス、年度末等の時期に関係者・部活動生徒保護者対象に発表会を行っています。部活動全体での発表会等の企画は実施できませんでした。

7. 女子校（女子教育）の魅力伝える企画の開催

(8)	本校の認知度を高める方法の実践を目指します。 本校の教育活動(商品開発・SDGs教育・GSlab・スタディツアー他)のPR 探究型授業、LPB 教育への取組みなど、総合的な学びに取組む学校のPR	達成度	○
-----	---	-----	---

新校長就任に係るイベント企画(教育講演会・教育フォーラム)を校内外で実施しました。本校の教育活動についてSNS等デジタル広報媒体を用いて例年以上に行いました。併せて広報部生徒参加による学校説明会を実施しました。2023 年度入試結果の分析を活かした広報活動を行いました。今年度の生徒募集結果には繋がりませんでした。

(9)	広報研究部（在校生徒）参加による学校説明会を実施します。 教育フォーラムⅠ：6月8日(木)在校生保護者対象	達成度	◎
-----	--	-----	---

女子教育・キリスト教教育を柱とする本校教育と新しい時代が求める学びと生き方について、講師を招き講演を中心にディスカッションを交え実施しました。

(10)	新校長就任に係る広報活動の推進に取組みます。 教育フォーラムⅡ：10月11日(水)道新ホール	達成度	◎
------	---	-----	---

教育フォーラムⅠに続き、本校が目指してきた教育とその成果と将来への展望を、講師を招き、現校長、次期校長の講演、各分野で活躍する卒業生を交えてのクロストークなどの内容を実施しました。



▲教育フォーラムⅠ



▲教育フォーラムⅡ



▲教育フォーラムⅡ クロストーク

(11)	学校アンケート結果を用いた学校づくりに継続して取組みます。	達成度	○
------	-------------------------------	-----	---

今年度も実施したアンケートを集計した結果を用いて、より良い学校づくりのための取組みを行いました。

(12)	全教職員が生徒募集の目線を持った教育活動の共有を目指します。	達成度	△
------	--------------------------------	-----	---

入試広報部の活動に任せることなく、多くの教員一人ひとりが役割を担い生徒募集活動にあたりましたが、生徒保護者対応・部活指導・学習指導等の校務のために十分な時間を割くことが難しい状況もありました。

(13)	S N S等デジタル広報媒体の有効活用研究に継続して取り組みます。	達成度	○
------	-----------------------------------	-----	---

今年度も入試広報部が主導して、S N S等のデジタル媒体を活用した広報活動を行いました。次年度も継続します。

(14)	オープンキャンパス（小学生対象）の開催を継続します。	達成度	◎
------	----------------------------	-----	---

今年度も開催しましたが、特に一貫課程入試を終えた3月に実施した小学5年生対象のミニオープンキャンパスは、昨年度参加数の約2倍の児童保護者が参加しました。この流れを次年度入試に活かします。



▲ミニオープンキャンパス

(15)	2023 年度入試結果分析を活かした広報活動に取り組みます。	達成度	△
------	--------------------------------	-----	---

今年度は入学試験結果の分析を生徒募集に十分に活かすことができませんでした。2024 年度入学生対象のアンケート、入学試験結果の分析を実施し、新年度生徒募集に活かせるよう取り組みます。

VIII. マネジメント改革

1. 役割担当と権限の明確化

(1)	2024 年度学校運営体制（2024 年度新校長就任）への準備に継続して取り組みます。	達成度	◎
-----	---	-----	---

新校長就任のための学校運営体制の準備を行うことができました。次期校長を加えた改革推進委員会から 2025 年度実施の教育改革案を教職員に提案することができました。分掌部長会議と改革推進委員会の連携の実施、いじめ対策委員会の活動強化を行うことができました。

2. 管理職体制の見直し（副校長職の研究・教頭の役割：2021 年度から教頭 3 名体制実施）

(2)	管理職体制の整備に継続して取り組みます。	達成度	○
-----	----------------------	-----	---

2021 年度から実施している教頭 3 名体制を整え、各教頭担当業務の明確化と学校運営会議機能の整備強化に取り組むことができました。

3. 教育改革と学校運営に対応できるマネジメント体制の整備と強化

(3)	2025 グランドデザイン（教育改革第Ⅱ期）改革案の策定に取り組めます。	達成度	○
-----	--------------------------------------	-----	---

今年度後半から次期校長を加え学園内委員会と連携を取りながら、2025 グランドデザインの策定に取り組めました。

4. 校内分掌の働きと役割の整備

(4)	分掌部長会の学校運営により俯瞰的視野を持つ会議体としての位置づけを目指します。	達成度	○
-----	---	-----	---

分掌部長会議と改革推進委員会との連携体制、いじめ対策委員会の機能整備等を行い、校内分掌の機能強化を行いました。

IX. 北星ブランドの構築と運用

1. 教員人事採用

(1)	教員の資質向上を目的として、担任研修（学級運営・保護者対応）の実施と初任者研修や中堅教員研修（キリスト教学校教育同盟・私立中高協会等）への派遣に取り組めます。	達成度	△
-----	---	-----	---

初任者研修・中堅教員研修（キリスト教学校教育同盟・私立中校教会）には校務及び部活等の日程と重なり参加できませんでした。

2. 新しい時代の教育キリスト教学校に相応しい教員採用（複数教科教員免許・グローバル教育）

(2)	新しい時代の教育に相応しい教員採用（複数教科教員免許他）の研究と実施に取り組めます。	達成度	○
-----	--	-----	---

以前に比べ教員採用が難しい状況にある中、キリスト教学校教育同盟校の情報交換会に定期的に参加し、教員採用に関して各校との情報交換を行いました。

3. 人事委員会の主導による本校教育に相応しい教員の柔軟な採用

(3)	人事委員会主導による本校教育に相応しい教員採用に取り組めます。	達成度	○
-----	---------------------------------	-----	---

学校現場で働くことを希望する人材が減少する難しい社会状況が本校の教員募集にも影響していますが、本校教育の柱である「建学の精神」「女子教育」「キリスト教教育」を理解し、積極的に関わる意思のある教員の採用に今後も務めます。

(4)	働き方改革の検討と実施に向けて、労働者過半数代表との協議及び検討に取り組めます。	達成度	○
-----	--	-----	---

労働者過半数代表者と現状の学校課題を共有する中で、労働環境の改善について意見交換を行い 2024 年度の 36 協定を締結しました。今後も十分な時間を取り労働環境改善のための協議及び検討を行います。

(5)	変形労働時間制導入等学園との調整と働きやすい職場づくり、労働環境の改善に取り組めます。	達成度	△
-----	---	-----	---

変形労働時間制導入に係る学園全体での連絡調整を行いましたが、具体的な進展を見ることはできませんでした。互いの意見を尊重し、働きを支え合う職場づくりを大切にしながら、今後も検討を継続していきます。

X. 校地資産活用

1. 南4条校地の地域に開かれた活用（学園規模での検討）

(1)	札幌市中心部に位置する学校として地域に開かれた活用について学園規模での検討に継続して取組めます。	達成度	△
-----	--	-----	---

具体的な取組みには至りませんでした。南4条校地は本校だけでなく、北星学園が長らく歴史を刻んだ地として大切にしてきた土地です。札幌市の中心部にある土地として、女子中高だけでなく学園としての有効活用を考えていく必要があります。

2. 盤渓校地の活用研究（学園規模での検討）

(2)	盤渓校地の活用について学園規模での検討に継続して取組めます。	達成度	△
-----	--------------------------------	-----	---

盤渓校地の視察を行いました。今後、聖心女子学院跡地を含めた学園としての活用を学園グラウンドデザイン・女子中高グラウンドデザインに沿って検討することが必要です。

XI. 財務運営方針

1. 安定した生徒募集による財政運営目標設定

(1)	2030年度に経常収支差額均衡を目指します。	達成度	△
-----	------------------------	-----	---

今年度も経費削減に務めました。

(2)	生徒募集年度目標の達成に取組めます。	達成度	△
-----	--------------------	-----	---

学校の知名度向上のためSNSを用いた広報活動、学校説明会内容の工夫、生徒広報部の再開、教員による学校回り、私立中学校展への参加を含め生徒募集目標達成のための活動に取組みました。

2024年度の最終受験結果は一貫課程入学生徒数67名(昨年度比14%減)、高校課程159名(昨年度比22%減)と一貫課程・高校課程ともに入学生徒数を減らしました。特に高校課程の生徒減は大きく、2024年度入試結果を入試広報部での分析を急ぎ、次年度の生徒募集対策を検討します。

(3)	奨学金削減計画の実施に取組めます。	達成度	△
-----	-------------------	-----	---

今年度も奨学金削減(入学成績優秀者・クラブ活動・科コース等)について検討・実施しましたが、次年度以降も奨学金制度の新たな基準検討を含めた削減計画の実施に取組めます。

2. 財政計画立案

(4)	経常収支差額均衡を図るべく財政計画の立案に継続して取組めます。	達成度	△
-----	---------------------------------	-----	---

2024年度入試結果を踏まえ、2030年度の入学生徒数目標を実現可能生徒数に変更し、2025年度開始の教育改革案策定に取組み支出削減を継続しつつ経常収支差額均衡に向け取組めます。

以 上

北星学園女子中学高等学校の中長期計画

スクール・ミッション

「自分らしさを大切にし、他者とともに生き、輝くことができる女性」 ・自分らしさを大切にできる人間の育成 ・他者と共に生きる力を身に付けた人間の育成 ・社会に貢献できる人間の育成
--

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【重点項目】 ・キリスト教教育 ・女子教育 ・言語教育 ・新しい教育への取り組み 1. 神から招かれ認められた存在として送る学校生活の実現 2. 聖書に基づいた一人ひとりを大切にす る教育の実現 3. 多様性の中でこそ求められるコミュ ケーション能力を伸長させる教育の実現 4. 現代社会における女性の特性を踏まえ た教育の実践 5. 自ら学ぶ姿勢と他者と共に挑戦する姿 勢の獲得 6. 社会との繋がり実感する教育活動の実 践	教 学	Ⅰ 教科 教育	ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー を 踏 ま え た 教 育 を 実 施 し、 ス ク ー ル ミ ッ シ ョ ン の 実 現 を 目 指 す。	国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。
				ICTの教育活動への利用について研究し、P B L 学習、G S Labをはじめとした探究型教育の実践に生かす。
				グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。
				新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。
				伝統と特長を生かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。
				建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びリベラルアーツ教育を展開する体制を構築する。
				姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。
				キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。
		Ⅱ 生 活 指 導		キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。
				上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。
				自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。
				女子単学の環境を生かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。
				新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

2040年までに目指す姿		強化・改革に取り組む事柄		2030年Milestone（中期目標）	
【重点項目】 ・キリスト教教育 ・女子教育 ・言語教育 ・新しい教育への取り組み	教 学	Ⅲ 進 路 指 導	スクー ール・ ポリシ ーを踏 まえた 教育を 実施し 、ス クー ールミ ッショ ンの実 現を目 指す。	高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。	
				海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。	
				一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。	
	経 営 ・ 管 理	Ⅰ 募 集 体 制 と 広 報		探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。	
				通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。	
		留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。			
		Ⅱ 働 き 方 改 革		管理職体制の見直しを図り、教育改革と学校運営に対応できるマネジメント体制を整備する。	
				教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。	
		Ⅲ 採 用 計 画		建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。	
	学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。				
	財 務	Ⅰ 財 務 運 営 方 針		2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。	
				1 クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。	
奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。					
学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。					
Ⅱ 施 設 ・ 設 備		札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。			
		C A L L 教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。			
		スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。			